

## 令和4年度 京都市立嵯峨中学校 学校教育目標

### 京都市の目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども

### 京都嵯峨学園教育目標

地域に学び、豊かな人間力を育む小中一貫教育を目指す

### 令和4年度 重視する視点（学校教育の重点）

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

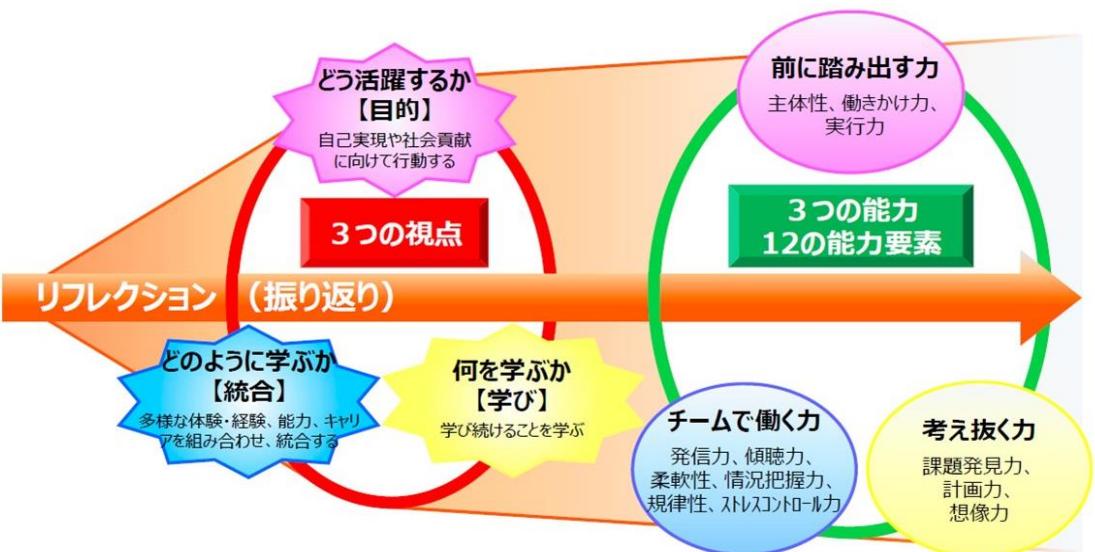
### 学校運営方針

- ① 学習指導要領のねらいを認識し、教育活動全般において「学びの質」を高める
- ② 地域の人的・物的教育資源を有効に活用した「地域とともににある学校づくり」を推進するなかで、学びと社会のつながり・接続を重視するとともに、「公共の精神」に基づく態度を育む
- ③ 全教職員が教育の質を高めるべく研鑽し続けるとともに、持続可能な学校教育を実現するために働き方改革を推進する

### 学校教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、社会人基礎力の育成を目指す

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え方力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。平成29年度には「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義され、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。



## 目指す生徒像

- ① **自立** 何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒 【前に踏み出す力】
- ② **創造** 自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒 【考え抜く力】
- ③ **共生** 多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力できる生徒 【チームで働く力】

## 令和4年度 重点目標と詳細

- ① 学習指導要領および学校教育の重点のねらいに沿った対応
- 生徒の活動を重視した授業への改善と信頼性のある3観点評価の実施
  - 基盤的ツールとしてのICT機器の活用（ロードマップ参照・GIGAスクール「充実期」）
  - 家庭学習の習慣化と日々の授業との連動（振り返りの重視とエスノートの活用）
- ② 嵯峨中パレードの再構築 ウィズコロナで実施可能・アフターコロナを見据えた取組に
- これまでの伝統（不易）と新しい時代（流行）に合わせた取組の検討・実施
- ③ 働き方改革の推進 超過勤務月45時間以内の達成に向けて（令和6年度末）
- 勤務時間をベースとした各取組の検討・実施
  - 超過勤務80時間を超える教職員をゼロにする。（45時間以内にすることを目標）
  - 教職員の意識改革と自己研鑽による資質・能力の向上

## 令和4年度 各種指定事業

※ ○ は継続しての取組 ● は新規の取組